

【分野】 野 菜

夏秋トマトの裂果・草勢低下対策

【要約】

夏秋トマトでは、台木に「グリーンフォース」を用いることで秋期の収量がやや増加します。また裂果に強い新品種の導入により、裂果の発生率を大きく低下させることができます。

【背景】

夏秋トマトでは、夏期の高温や強日射の影響で裂果（図1）の増加や草勢低下による減収が問題となっており、対策が求められています。そこで、夏秋期の裂果及び草勢低下を軽減する方法について検討しました。

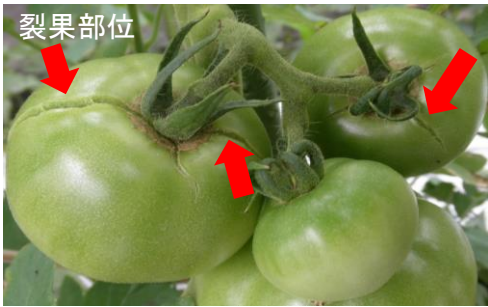


図1 トマトの裂果

【結果】

1 秋期の増収が見込める

穂木・台木品種の組合せ

「桃太郎ワンダー」と台木との組合せにおける収量は、自根と比較して「キングバリア」では同程度でしたが、「ンフォース」では、やや増加することを明らかにしました（図2）。

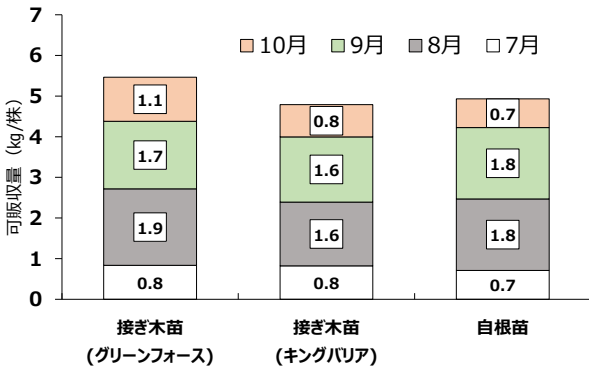


図2 「桃太郎ワンダー」の接ぎ木苗及び自根苗の月別の可販収量

2 秋期の増収が見込める

栽培管理の方法

7月中旬に開花した花房を摘除することで、9月以降の草勢を強く保つことができます。処理により8月の収量は減少しますが、秋期（9～10月）の収量が増加し、粗収入の増加にも期待できます（表1）。

表1 摘花房処理が収量に及ぼす影響

処理区	可販収量 (kg/株)		粗収入 (円/株)
	秋期 (9～10月)	全期間 (7～10月)	全期間 (7～10月)
摘花房あり (7月中旬)	1.7	3.4	1,187
摘花房なし	1.4	3.4	1,156

3 裂果に強く、収量が安定する

穂木品種の選定

新品種「桃太郎みなみ」及び「麗月」は「桃太郎ワンダー」と比較して程度の強い裂果が少ないことを確認しました（表2）。

表2 各品種の裂果発生程度の比較

処理区	裂果発生割合(%)			
	0 <sup>2</sup>	1	2	3
桃太郎みなみ	81	17	1	1
麗月	96	3	0	0
桃太郎ワンダー	48	33	10	9

<sup>2</sup> 裂果発生程度（0～3の4段階評価、0：発生なし、1：果肉に達していない、2：果汁が出ない、病気・腐敗がないもの、3：規格外品）